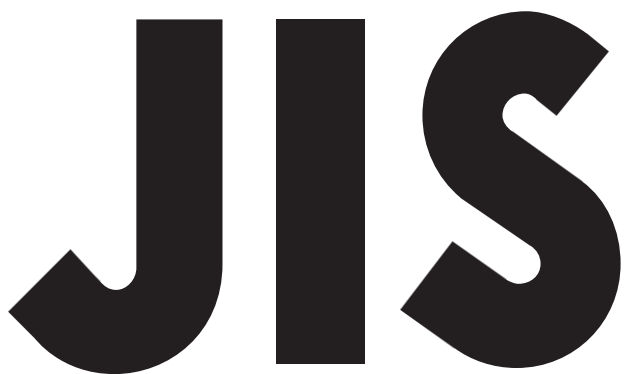




転がり軸受一針状ころ軸受の主要寸法，
製品の幾何特性仕様（GPS）及び公差値一
第 3 部：ラジアル保持器付き針状ころ

JIS B 1536-3 : 2025

(JBIA)

令和 7 年 2 月 20 日 改正

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 機械要素技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	是 永 敦	国立研究開発法人産業技術総合研究所
(委員)	相 羽 繁 生	株式会社東郷製作所
	伊 藤 和 巳	カヤバ株式会社
	岡 田 聡	ヤマザキマザック株式会社
	沖 田 淳 也	住友電工ハードメタル株式会社
	菅 谷 功	株式会社ニコン
	橋 村 真 治	芝浦工業大学
	平 井 亜紀子	国立研究開発法人産業技術総合研究所

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 20.4.20 改正：令和 7.2.20

官 報 掲 載 日：令和 7.2.20

原 案 作 成 者：一般社団法人日本ベアリング工業会

(〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 TEL 03-3433-0926)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会 (部会長 田辺 新一)

審議専門委員会：機械要素技術専門委員会 (委員長 是永 敦)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省イノベーション・環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
4 記号	2
5 主要寸法	3
6 許容差，許容値及び公差値	5
6.1 針状ころの許容差，許容値及び公差値	5
6.2 保持器幅の許容差	6
附属書 A（参考）軸軌道，ハウジング軌道及び軌道幅の許容差，許容値及び公差値	7
附属書 B（参考）ラジアル保持器付き針状ころのゲージ検査	9
附属書 JA（参考）JIS と対応国際規格との対比表	12
解 説	14

まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 12 条第 1 項の規定に基づき、一般社団法人日本ベアリング工業会（JBIA）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS B 1536-3:2008** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

JIS B 1536 規格群〔転がり軸受－針状ころ軸受の主要寸法、製品の幾何特性仕様（GPS）及び公差値〕は、次に示す部で構成する。

JIS B 1536-1 第 1 部：ソリッド形

JIS B 1536-2 第 2 部：内輪なしシェル形

JIS B 1536-3 第 3 部：ラジアル保持器付き針状ころ

JIS B 1536-4 第 4 部：スラスト保持器付き針状ころ及びスラストワッシャ

JIS B 1536-5 第 5 部：トラックローラ

転がり軸受—針状ころ軸受の主要寸法， 製品の幾何特性仕様（GPS）及び公差値— 第 3 部：ラジアル保持器付き針状ころ

Rolling bearings—Boundary dimensions, geometrical product specifications
(GPS) and tolerance values of needle roller bearings—
Part 3: Radial needle roller and cage assemblies

序文

この規格は、2022 年に第 4 版として発行された **ISO 3030** を基とし、我が国の実態に即して、対応国際規格には規定されていない規定項目を追加するなど、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。

なお、この規格で点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。技術的差異の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JA** に示す。

1 適用範囲

この規格は、ラジアル保持器付き針状ころの主要寸法、許容差、許容値及び公差値について規定する。さらに、保持器の幅の許容差を規定する。

軸軌道、ハウジング軌道及び軌道幅についての許容差、許容値及び公差値を、参考として**附属書 A** に示す。

ラジアル保持器付き針状ころのゲージ検査を、参考として**附属書 B** に示す。

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 3030:2022, Rolling bearings — Radial needle roller and cage assemblies — Boundary dimensions, geometrical product specifications (GPS) and tolerance values (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、**ISO/IEC Guide 21-1** に基づき、“修正している”ことを示す。

2 引用規格

次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む）を適用する。

JIS B 0420-1 製品の幾何特性仕様（GPS）—寸法の公差表示方式—第 1 部：長さに関わるサイズ

注記 対応国際規格における引用規格：**ISO 14405-1**, Geometrical product specifications (GPS) — Dimensional tolerancing — Part 1: Linear sizes